

第4学年道徳指導案

平成17年10月28日(金) 2校時
4年2組(男15名 女16名 計31名)
指導者 品川 幸子

- 1 主題名 みんなのためにつくす人々 (2-(4)尊敬・感謝)
- 2 資料名 あと三十分おくれたら (出典 学研)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の内容項目2-(4)は「生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。」となっている。人間関係を基にした日常生活において心がけなければならない基本精神を述べたものであり、広く人々や生活に対する尊敬と感謝の念をもった児童を育てようとする内容項目である。これは第1学年及び第2学年の内容項目2-(4)「日頃お世話になっている人々に感謝する。」を受けたものであり、さらに、第5学年及び第6学年では2-(5)「日々の生活が人々の支えあいや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。」に発展していく。

よい人間関係を築くには、互いを認め合うことが大切だが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。そして、それは、日々の生活、さらには自分が存在することに対する感謝へと広がり、生命尊重や人間尊重の精神を支えることになる。

この期の児童は、ギャング・エイジといわれるように活動範囲が広がり、多くの人と関わるようになる。そして、自分たちの生活を支えるために働いてくれる多くの人がいることを理解している。しかし、児童にとっては、そうしたことが当たり前だという意識が強く、ありがたいという気持ちは薄い。自分たちの生活を支えている人々が真剣に働いていることを理解し、その人々に対して尊敬・感謝の気持ちをもつことができるように指導していくことが大切であると考え。

(2) 児童について

本学級の児童は、世話になっている人に感謝の心をもつことが大切だということは理解しており、何かをしてもらったらお礼の言葉で応えるものだという事は分かっている。教師や友達に何かをしてもらおうと「ありがとうございます」「ありがとう」を口にする児童はいるが、当然のように受け取ったり、恥ずかしさから顔も見ずに立ち去ったりする児童もいる。お礼を言う児童もそれは家庭や学校のしつけに由来するものであり、本人の有難いという気持ちから発せられたものと感じられることは少ない。ましてや、ごみはごみ収集車をもっていくものであり、雪の日に除雪してあるのは当たり前等と思いがちである。

そこで、自分が普通に生活しているのは、多くの人々に支えられているからであり、普通の生活ができること自体が人々に支えられていたことに気づかせ、身の周りの人々、学校、広く地域社会の人々に尊敬と感謝の気持ちをもてるように育てていきたい。

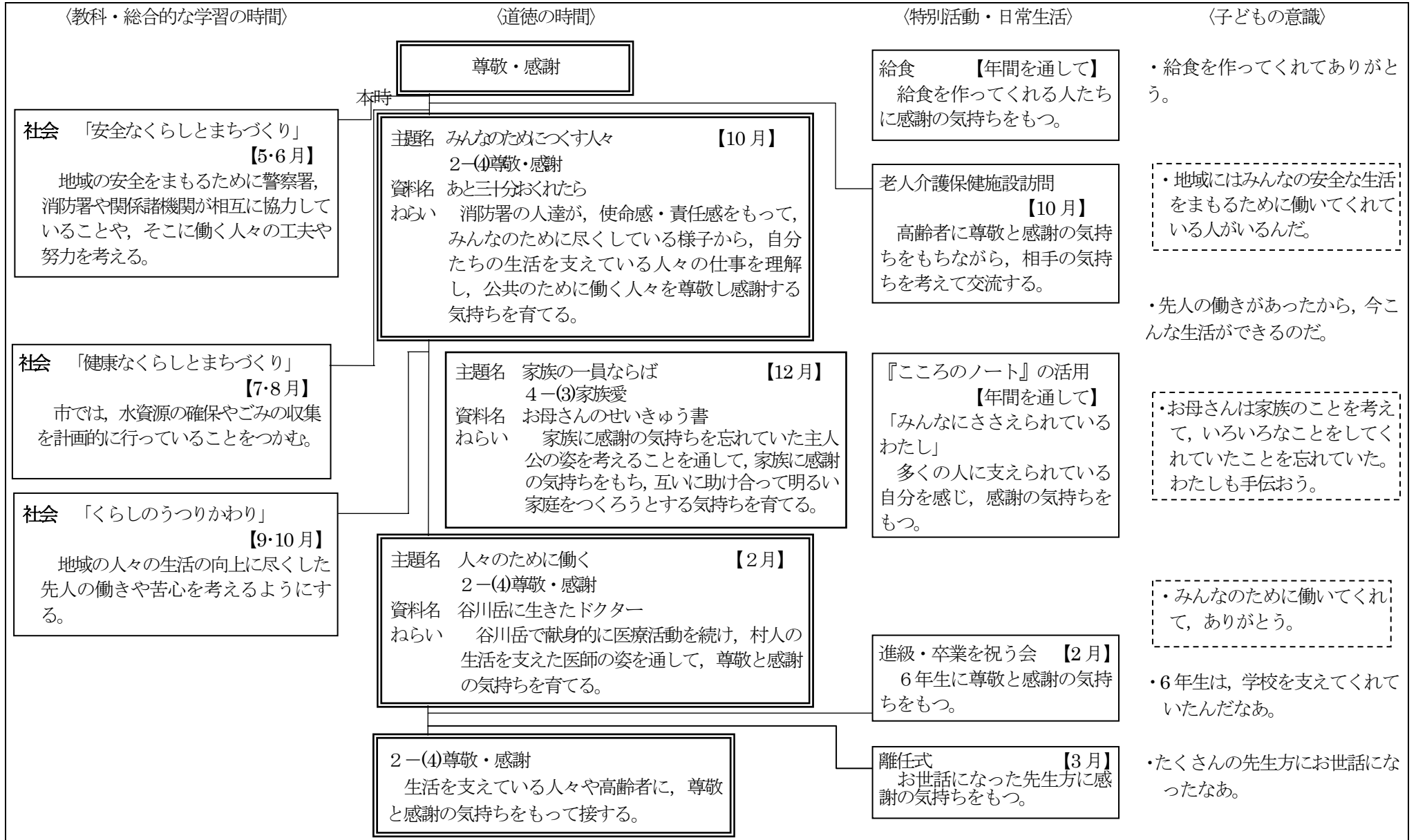
(3) 資料について

寒い夜、消防署の救急隊員は急病で電話をかけてきた北川さんの家を探し回っていた。正夫は救急隊を北川さんの家まで案内し、救助活動を目の当たりにする。次の日、正夫はあと30分おくれたら手遅れになっていたかもしれなかったことを新聞記事で知る。真剣に北川さんを探し出そうとしていた救急隊の人たちの様子を思い出しながら、公共のために働く人へ尊敬と感謝の気持ちを抱く。本資料は、一人の人間の命を救うために、たくさんの消防署員がどれだけ真剣に仕事をしているかが丹念に書かれている。消防署員に尊敬と感謝の気持ちを抱く主人公の気持ちに、児童は素直に共感をすることができ、価値に迫るのに適していると考え。

(4) 授業の構想について

「見つめる」段階では、ゲストティーチャーとして、本校の近くにある盛岡西消防署の救命救急士の方に来ていただく。救命救急士になったきっかけや実際に人を救った体験、苦労をした体験について話をしていただくことで、資料の内容を自分の生活に引き寄せさせるとともに、自分たちも守られているということを実感させたい。また、救助活動をする上でゲストティーチャー自身が感謝されたり感謝したりした体験を話していただき感謝することの大切さを感じ取らせたい。

4. 全教育活動における本時の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい 消防署の人達が、使命感・責任感をもって、みんなのために尽くしている様子から、自分たちの生活を支えている人々の仕事を理解し、公共のために働く人々を尊敬し感謝する気持ちを育てる。

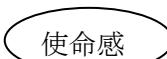
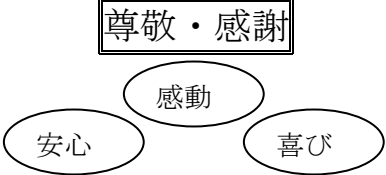
(2) 展開

| 段階 | 学習活動と主な発問 | 予想される児童の発言や心の動き | 指導上の留意点や支援 |
|--|--|---|--|
| 気づく 8分 | <p>1 自分たちの生活を支えてくれる人について自分の思いを確かめる。</p> <p>○みなさんのアンケートの結果からどんなことを感じましたか。</p> <p>2 資料を読み、学習課題を設定する。</p> <p>○資料を読んだ感想やみんなと話し合いたいことを発表してください。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人のお世話になっている。 ・自分は世話になったことがない人もいる。 ・北川さんが助かってよかった。 ・救急隊の人たちが1件1件探して歩いたのがすごい。 ・救急隊の人を見て正夫はどんな気持ちだったのか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の生活を支えてくれている人」のアンケート結果を提示し、価値への方向付けを図る。 ・救急隊への感想から、学習課題を設定する。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">消防署の人たちに対する正夫の気持ちを考えよう。</div> | | | |
| 深める 20分 | <p>3 「正夫」の気持ちについて話し合う。</p> <p>○正夫はどんな気持ちで救急隊の人を案内したのでしょうか。</p> <p>○ 正夫は、救急隊の活動を見ながら、どんなことを思っていたでしょう。</p> <p>◎あと 30分遅れたら手遅れになっていたことを知って、正夫は消防署の人に対してどんな気持ちをもったでしょう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・何があったんだろう。 ・北川さん、どうしたのかなあ。 ・早く案内しよう。 ・ぼくも役に立ちたい。 ・知っているのはぼくだけだ。ぼくが教えなければいけない。 ・窓によじ登っている。 ・大変そうだなあ。 ・みんなで力を合わせている。 ・寒くないのかなあ。 ・北川さんは、大丈夫かな。 ・案内出来てよかった。 ・少しでも早く北川さんを助け出そうと真剣だった。 ・消防署の人たちのおかげで助かったんだ。 ・消防署の人たちはすごいなあ。 ・命を落とすところだった。助かってよかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・北川さんのことを考え、使命感をもって救急隊を案内する正夫の気持ちに共感させる。 ・救急隊の人が、一人の人を助けようと真剣に努力していることに気づかせたい。 ・消防署の人たちの活動を確認し、使命感、責任感のもとに、切実な思いで活動していたことに気づかせ、感謝の気持ちに共感させる。 |
| 見つめる 15分 | <p>5 今までの自分を振り返る。</p> <p>○ゲストティーチャー（救命救急士）の話を聞く。</p> <p>○どんな人たちが自分達の</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・大変なことをしているんだなあ。 ・わたしに何かあっても助けに来てくれるんだ。 ・救急隊の人たちにありがとうと言 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーから仕事の内容、苦勞を聞くことにより、自分たちも守られていることに気づかせる。 ・「心のノート」P46に、自 |

7 資料分析

(1) ねらい 消防署の人達が、使命感・責任感をもって、みんなのために尽くしている様子から、自分たちの生活を支えている人々の仕事を理解し、公共のために働く人々を尊敬し感謝する気持ちを育てる。

(2) 資料名 あと三十分おくれたら (出典 学研)

| | | | | |
|-----------|---|---|---|--|
| 主な場面 | 正夫が救急隊の人を案内する場面 | 山田さんが「119番」を受ける場面 | 北川さんを救助する救急隊員を見る場面 | あと30分遅れたら、手遅れになっていたことを知る場面 |
| 把握すべき状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・1月、寒い夜 ・「消防署の救急隊ですが、2丁目5番地のキタガワさんという方を知りませんか。」 ・北川さんーときどき野球を教えてくれる一人暮らしのおじさん | <ul style="list-style-type: none"> ・「119番の山田さん」の呼びかけに、返事がない。苦しそうな息遣い。 ・「東町2丁目5, キタガワ」地図にはない。 ・1軒1軒聞いてまわることになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ようやく、見つかる。 ・アパートの戸口のドアには、かぎ。 ・よじ登って、体を器用にすべりこませた。 ・てきぱきとしたチームワーク。 ・雪がちらほら。 | <ul style="list-style-type: none"> ・北川さんは、かぜから肺炎を起こし、急に苦しくなって119番をかけたが、のどにたんが詰まって呼吸困難になり、意識がなくなっていた。 ・救急車のつくのがあと30分おくれたら、手遅れになっていたでしょう |
| 登場人物の心の動き |  <ul style="list-style-type: none"> ・はっとした。 ・「ぼく、知ってるよ」とさげんで、パジャマ姿のままとびだした。 |  <ul style="list-style-type: none"> ・ただごとではない。 ・仲間の隊員に合図した。 ・電話口の相手をはげます。 |  <ul style="list-style-type: none"> ・こんな寒い夜中でも働いている人がいるんだねえ。 |  <ul style="list-style-type: none"> ・ほっとひと安心して、きのうの救急車のおじさんたちのしんげんな様子を思い出す。 |
| 児童の反応 | <ul style="list-style-type: none"> ・役に立ちたい。 ・早く案内しよう。 ・北川さん、どうしたのかなあ。 ・何があったんだろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一刻も早く、助けたい。 ・人のためにつくしたい。 ・みんなのために役に立ちたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・窓によじ登ってまで、入ろうとしている。 ・大変そうだなあ。 ・みんなで力を合わせている。 ・寒くないのかなあ。 ・北川さんは、大丈夫かな。 ・案内出来てよかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・少しでも早く北川さんを助け出そうと真剣だった。 ・消防署員のおかげで助かったんだ。 ・消防署の人たちはすごいなあ。 ・命を落とすところだった。助かってよかった。 |
| 基本発問 | ○正夫はどんな気持ちで救急隊の人を案内したのでしょうか。 | ○山田さんは、どんな気持ちで「119番」を受けていたのでしょうか。 | ○正夫は、救急隊の活動を見ながら、どんなことを思っていたのでしょうか。 | ◎あと30分遅れたら手遅れになっていたことを知って、正夫は消防署の人に対してどんな気持ちをもったのでしょうか。 |